

# 十年前に一度だけ遊んだ仕事仲間

東京大学生産技術研究所 岡部 徹

国際金融マンであった父の転勤に伴って、海外を含めて子供の頃は2~4年毎に転々と住む場所を変えてきた。大学を卒業してからの職場も移動が多く、研究をはじめてから京大、MIT、東北大、東大と転々としている。とくに引越しが好きなわけではないが、生まれてからこれまで、すでに20回以上の引越しを経験している。この15年間だけでも、京都で3回、ボストンで2回、仙台3回、東京2回と、10回以上の引越しを繰り返しているため、私の戸籍簿には住所遍歴が記載されている長い附表がついている。

このような生き立ちゆえ、「専門分野は？」と訊かれると「引越し工学」と答えることがしばしばある。私の専門はチタンやニオブなどレアメタルの製造プロセス開発をはじめとする高温材料化学であるが、研究室や装置の引越しも得意とし、実際に研究インフラの迅速な立ち上げは私の得意分野の一つとなっている。引越し工学を専門とする私にとってのもう一つの楽しみは人との出会いである。世界各地で知合いになった多くの友人は今ではかけがえのない私の貴重な財産となっている。新しい職場に赴任した直後は知合いが殆どいないため大変苦労するが、しばらくすると環境が変わった分だけ新たな出会いが生まれる。その結果、知合いが増えると同時に、新しい価値観に接し優れた才能を有する人に遭遇して感化されるという大きなメリットがある。

さて本題の私の出会いについてであるが、今から十年ほど前、京大で学位を取得後、MITにポスドクとして赴任する機会を得、ボストンへ赴任の途次、ハワイで開催される米国電気化学会が主宰の日米共同のシンポジウムに参加した。私はこの学会の会員ではなかったが、赴任地でのボスとなるサドウェイ教授がボストンからこの学会にはるばるやって来られるので参加することにした次第である。学会での発表後、サドウェイ教授から「Toru、学会はサボってドライブしないか？」と誘われたので私は二つ返事でOKした。「それではラフな服に着替えてからホテルのフロントで待ち合わせよう」ということになり、ホテルのロビーで待ち合わせていた。そこへ若い日本人の研究者が通りかかったので、声をかけたところ、東大の生産技術研究所の光田先生だということを知った。光田先生とはハワイへ来るまでは全く面識が無く、その前日に学会会場でお見かけしただけであった。Tシャツに海水パンツ姿で現れたボスは「せっかくレンタカーを借

りて遊ぶのだから、もう一人ぐらい誘おう」と言い出されたが、あいにく私には知合いがいなかった。そこでとっさにスーツ姿の光田先生に「一緒にドライブしません？」と尋ねてみた。まじめそうな東大の先生だったので、間違いなく断られるものと思っていたところ、驚いたことに即座に「いいですねえ」と返事が返ってきた。その日はほぼ半日それまでお互いに殆ど知らない出身の異なる 3 人がオアフ島内をドライブするという不思議な体験をした。光田先生とはそれ以来、年賀状をやり取りする関係になったものの、専門も異なり、また私はボストンで 3 年過ごした後、仙台に赴任したので 10 年近く一度もお会いすることはなかった。

ところが、一昨年、私が東大に赴任する話が持ち上がり、見知らぬ東大の先生方を前にセミナー形式の講演をする機会が与えられた。上京する朝の新幹線が車両故障で不通になり、車内で長時間缶詰なるなどのハプニングに見舞われたため、私一人のために設定された講演会に遅刻するのではないかと思った。なんとか発表時間までには講演会場にたどりついたものの、到着までの心労と初対面の先生方を前にしての慣れない講演に臨む前はとても緊張していた。会場に入ったときはじめて、そこに光田先生がおられることに気がついたが、過去にたった一度とはい派手に遊んだ先生が幸い同じ部屋におられると知っただけで、落ち着きを取り戻すことができた。お陰で講演会は無事終わったが、改めて出会いと頼れる知人の存在の重要性を認識した。今は光田先生と同じ研究所に所属し、同じ階にいる好都合も手伝って先輩として日々色々お教えいただいている。十年前と一緒にドライブしたときは、同じ職場で働くことになろうとは夢にも思わなかったが、人との出会いは偶然かつ不思議なものである。

職場や環境を頻繁に変えること、何事にも積極的に参加し、気軽に人に話し掛けること、大いに遊ぶこと、これらが貴重な出会いを体験する上での重要なポイントである。今後もこれまでと同じスタンスで、新たな偶然で楽しい出会いを模索して行きたい。